

敦賀市民間最終処分場環境保全対策協議会資料

平成 17 年 1 月 22 日

目 次

| | |
|---------------------|------|
| 1. 既往文献調査 | 1- 1 |
| 2. 現地調査 | 2- 1 |
| 2.1 調査内容 | 2- 1 |
| 2.2 高密度電気探査 | 2- 3 |
| 2.3 ボーリング調査 | 2- 6 |
| 2.4 まとめと今後の課題 | 2-10 |
| 3 対策基本方針について | 3- 1 |
| 4 今後の調査について | 4- 1 |

1. 既往文献調査

| 検討項目 | 要 点 | 備 考 |
|------|-----|-----|
|------|-----|-----|

(2) 地質

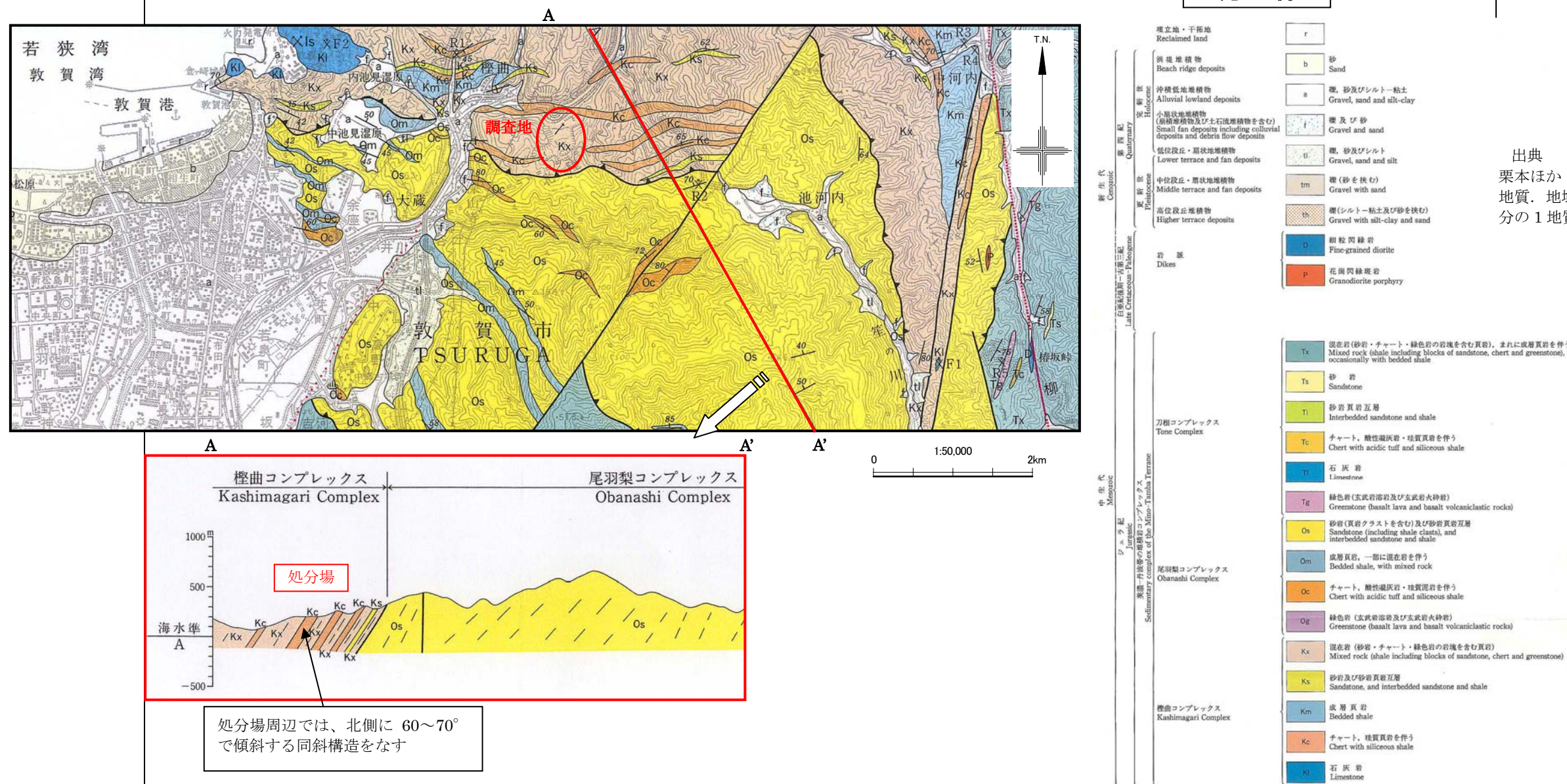
(2) 地質

処分場周辺の広域地質を、図-1.1.2※1に示す。調査地周辺は、日本列島の地帯構造区分上「美濃-丹波帯」に位置し、堆積岩コンプレックス（泥岩を基質として様々な種類の岩石が混じり合ったもの）と火成岩類（花崗岩）が広く分布する。

調査地周辺の堆積岩類は、海洋プレートの沈み込みの過程で形成された「付加体」と呼ばれ、調査地付近に分布する地質は櫛曲コンプレックスと呼ばれる混在岩である。櫛曲コンプレックスは、中生代ジュラ紀※2に形成されたもので、頁岩を主体とし砂岩、チャート、石灰岩などが岩塊として混在する。

図-1.1.2 調査地周辺の地質

※2 ジュラ紀：146～208Ma (Ma：百万年)
新版地学事典，地学団体研究会 (1996) による



処分場周辺では、北側に 60～70°で傾斜する同斜構造をなす

※1 栗本ほか (1999) 敦賀地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅) に一部加筆

図-1.1.2 調査地周辺の地質